

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成20年8月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2874200252
法人名	社会福祉法人ジェイエイあいおい福祉会
事業所名	グループホームこすもす倶楽部
	兵庫県相生市野瀬1356 (電話) 0791-24-0600
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号
訪問調査日	平成20年7月1日

【情報提供票より】 (20年5月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 15 人
職員数	16 人 常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算15.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (5月10日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平田クリニック 室井整形・心療内科
---------	-------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた施設は、利用者・家族の気持ちを理解し、喜怒哀楽を共にしながら穏やかに過せる家庭的な雰囲気である。毎年地域行事、祭礼への参加も定着し、地域住民の施設行事へも参加があり活発な交流が行われている。また、施設側から認知症予防・身体機能向上のレクリエーションを提供し地域への貢献に取り組んでいる。開設当初より取り組んでいるダイバーショナルセラピーも定着し、個々の独自性と個性を尊重しながら、寄り添う支援がなされている。協力医療機関の内科の往診は随時利用者の依頼に応じて行っている。心療内科・認知症専門医も定期的に往診がある。入所前からのかかりつけ医への通院は職員が行っている。状態の緊急時の連絡体制も出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	評価後はユニット会議で評価結果について説明を行い職員全体で改善に向けて検討している。評価結果は見やすい場所に設置している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今年度の評価受審については、月1回のユニット会議において自己評価についての説明を行い、全職員に自己評価票を配布し記入後、主任がまとめた。評価結果は見やすい場所に設置している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	会議は、地域住民・市、包括職員・家族代表・職員をメンバーとして2ヶ月に1回開催し、グループホームの現状の報告・事故報告等を行い会議の場で意見交換を行っている。評価受審についても評価の意義と結果を報告し、改善点についての事業所の取り組み・今年度の目標などについて話し合っている。職員へは口頭又は会議録を回覧し報告している。今年度までは、家族代表や包括職員は固定しているが、なるべく幅広い意見を聞けるように働きかけている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	職員は、家族から口頭で受けた苦情や要望などについて、その都度苦情・要望受付票に記入し、会議などで検討、対応した内容・結果について記録した受付票を管理者が集約、データ化を行い、職員・家族にも説明・周知している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	年間の地域行事で、春の餅まき・夏祭り・お正月の「とんど」に参加し交流を図っている。又、毎年地域ふれあい会から依頼を受け、年2回事業所が主体となり、公民館に職員を派遣し、リハビリ体操の指導・認知症ケアの講演等地域活動に参加している。利用者と共に老人会の畑の収穫を一緒に行い、また、日課となっている町内の散歩の際には挨拶を交わすなど、施設と地域住民の方との交流も盛んに行われている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの基本理念を基に、事業所の目指す方向性を具体的に明文化した理念を見やすい場所に掲げている。今年度は地域に根ざすグループホームとしての考え方を盛り込んだ事業所独自の理念作りに取り組んでいる。		制度改正によりグループホームの基本方針にある「家庭的な環境の下で」という表現は、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改められ、地域との関係性が重視されるようになってきている。事業所の現状も地域との活発な交流が行われており、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスとしての理念の追加が望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝朝礼で唱和し、ユニット便り、広報誌への記載・会議等機会あることに確認しあい、日々の業務の中においても、常に理念に立ち返るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間の地域行事で、春の餅まき・夏祭り・お正月の「とんど」に参加し交流を図っている。又、毎年地域ふれあい会から依頼を受け、年2回事業所が主体となり、公民館に職員を派遣し、リハビリ体操の指導・認知症ケアの講演等地域活動に参加している。利用者と共に老人会の畑の収穫を一緒に行い、また、日課となっている町内の散歩の際には挨拶を交わすなど、施設と地域住民の方との交流も盛んに行われている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価後はユニット会議で評価結果について説明を行い職員全体で改善に向けて検討している。今年度の評価受審については、月1回のユニット会議において自己評価についての説明を行い、全職員に自己評価票を配布し記入後、主任がまとめた。評価結果は見やすい場所に設置している。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は、地域住民・市、包括職員・家族代表・職員をメンバーとして2ヶ月に1回開催し、グループホームの現状の報告・事故報告等を行い会議の場で意見交換を行っている。評価受審についても評価の意義と結果を報告し、改善点についての事業所の取り組み・今年度の目標などについて話し合っている。職員へは口頭又は会議録を回覧し報告している。今年度までは、家族代表や包括職員は固定しているが、なるべく幅広い意見を聞けるように働きかけている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険課には、前年度、共用型デイサービスの計画についての相談や意見を聞きに行き、今年度は、現在1ユニット6人のところを増床する計画について頻繁に出向き担当者との相談を重ねている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>各ユニットで「式部たより」「小町でございます」と名付けたユニット便りに、事業所の様子と一緒に担当者が1人ひとりの健康状態や日々の暮らしぶりについて手書きし、行事の写真を添えて毎月発行している。又、随時の報告や家族からの要望など、FAXやメールで日々やり取りしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は、家族から口頭で受けた苦情や要望などについて、その都度苦情・要望受付票に記入し、会議などで検討、対応した内容・結果について記録した物を管理者が集約、データ化を行い、職員・家族にも説明・周知している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者ごとに担当制にしている為、移動や離職があると家族からの不満が出ることはあるが、主任・副主任が代わって対応できるような体制をとり、利用者への影響を最小限に抑えるように取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人・現任共に年間の研修計画を立て、段階的に学べる機会を確保している。外部研修は、勤務扱いで費用に関しても事業所負担とし、なるべく多くの職員が積極的に研修する機会を与えている。又、勉強会は月1回内部研修を含め自主勉強会という形で全職員が参加できるよう工夫して行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>周辺地区にある7ヶ所のグループホームでネットワークを作り連絡協議会として2ヶ月に1回管理者が参加して同業者間の交流を図っている。昨年11月には、各グループホームから2名ずつ職員が参加し活発に意見交換を行うなど有意義な取り組みが行われた。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に必ず管理者と入居予定となるユニットの職員が訪問して本人・家族と面談を行っている。利用開始前にはホームの見学で、雰囲気にとけ込み、顔なじみになってもらえるように働きかけている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々接していく中で利用者の力量に合った事柄を見出し自立に向けての支援がなされている。日常生活においては、職員と利用者という関係ではなく、一緒に暮らしている母と娘・孫と祖母というような雰囲気、自然にお互いの立場を理解し合った関係が作られ、共に暮らしていくもの同士として穏やかな生活ができるように配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式をフルに活用し、入所時に本人・家族からアセスメントした情報を詳細に記入している。その後も継続して面会時に家族から得た情報・日々の生活の中から見出した情報をその都度書き込み完成させ本人や家族の思いや把握に努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族から収集した情報を基に担当者が主体となってケース会議を開催し、利用者の現状を踏まえ、今後起こりうるリスクを含めた、全ての状況を捉えて話し合い、意向や思いに沿った介護計画を立てている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリング・評価を行い、ケース会議で利用者の状況の変化・問題点・本人・家族の思いとケアの状況にずれがないかを話し合い、定期的に介護計画の見直しを行っている。介護計画の見直しの時期が漏れる事がないように一覧表にまとめている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>近隣の整形外科へのリハビリ受診・かかりつけ医の定期的な受診同行など利用者個々の要望に応じた支援が行われている。又、近くの喫茶店での朝食希望、理美容室への同行・バスや電車を利用しての外出など一人ひとりの希望に沿った柔軟な対応を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科の往診・受診は随時利用者の状態に応じて行っている。心療内科・認知症専門医も定期的に往診がある。入所前からのかかりつけ医への通院は職員が行っている。状態の緊急時の連絡体制も出来ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての対応方法などのマニュアルは整備され、研修も実施している。また、本人・家族からの要望や思いを聞き取り、話し合う機会を多く持つようにしているが、まだ事業所としての方針がまとまっていない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者への声かけは親しみ易く、丁寧で尊厳を尊重した対応がなされ、利用者一人一人の入浴・排泄に関してもプライバシーへの配慮を含む個別マニュアルを作成し、実践している。排泄時の声かけや誘導についてもさりげなく行っている。職員に対しては、入退職時に個人情報の取り扱いについて誓約書を交わしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所が決めたスケジュールではなく、利用者の希望に合わせて散歩の時間を作りグループで出かけている。調理が得意な人は利用者が主体となって職員と共に食事作りを行う等、自己決定を促しながら、利用者のペースにあわせ、意思を尊重した支援が行われている。自分の意思表示の困難な利用者に対しては表情で思いを汲み取る努力がなされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎食の献立を職員と一緒に考え、買い物から調理・盛り付け・食事の準備や後片付けまで一人ひとりの能力に応じ、出来ることを自然に行っている。又、食事も職員と利用者が一緒に同じテーブルでゆったりとした雰囲気で行っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>担当者が作成した入浴に関するプライバシーへの配慮を含む利用者一人ひとりの個別マニュアルを作成し、マニュアルに沿って利用者が希望する入浴が出来るように支援している。時間や回数なども決めずに利用者の希望に応じた対応を行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活歴・習慣を把握し、能力や希望を考慮した上で、食事作り・買い物などの日常生活における楽しみや役割作りを援助している。またダイバーショナルセラピーの手法を取り入れ、日々の充実した暮らしを支援している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>個人または、グループでの希望に沿った計画を作成して、理美容や喫茶店での朝食、利用者同士の買い物や外出、保育所の子供たちとの散歩、地域住民との野菜収穫など一人ひとりの希望に添った多彩な外出支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やユニット間も開放され自由に行き来が出来、閉塞感は感じられない。玄関から庭への出入りも自由であり、施設の中からも外へ目が行き届くようプライバシーに配慮しつつ安全面に気を配っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・避難訓練は、利用者も参加し併設施設と合同で年2回、ホーム単独でも年2回昼夜を想定した訓練を実施している。災害発生時についても運営推進会議などで、地域と連携が図れるよう話し合っている。又、備蓄食料に関しても3日分は確保できている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取のチェック表には排泄の項目も一緒に記載できるようにし、栄養状態や脱水など体調の変化が把握しやすいようにしている。又、食事の献立を併設特養の管理栄養士にチェックしてもらい栄養バランスなどについて指導・助言を受けている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間を利用し、利用者が程よい距離で過ごせるように馴染みの家具を配置し仕切りに利用したり、暖簾や観葉植物を置いてセミパブリックスペースを設け、一人で過ごせる場所や気の合うもの同士でくつろげる空間づくりに配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の思いや家族の希望を聞きながらその人らしい部屋作りを心掛けている。昔使っていた黒電話で今も娘さんとやり取りをしたり、布団を使用し上げ下ろしも自分で行うなど以前の暮らしぶりがそのまま変わらずに出来るように支援している。		

は、重点項目。